

シロナ栽培マニュアル

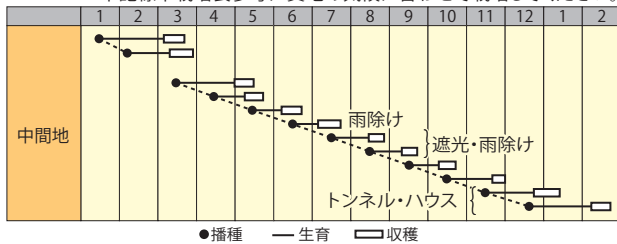
シロナとは？



シロナは結球しないハクサイの仲間で、大阪を中心に栽培されています。お浸しや煮びたしに用いられます。



下記標準栽培表参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。



①土づくり

現在、主として行われているハウス周年栽培では年4～5作が予想され、良品安定出荷のためには、土作りが欠かせません。定期的な有機質の投入は土壌の水もち、肥料もち、通気性の改善が図れ、急激な肥効の強弱も防止できます。また、通気性が良ければ植物体の根張りが良くなり、病気の減少にもつながり安定した栽培状態が望めます。

連作による塩類濃度障害を回避するため、天井を除去し降雨にあてるか、たっぷりと灌水して下さい。定期的な土壌消毒もお勧めします。殺菌、殺虫、除草の効果があります。

以上の点を心がけ、周年を通じその品種の持つ特性が100%発揮できる環境を与えてやる事が栽培のスタートです。

また生育期間が短い為、作業全体を通じて先手を打つ事が良品安定出荷につながります。

②施肥

肥料は元肥のみで三要素各10kg/10aを基準とし、夏期は各5kg/10a、冬期は各12～13kg/10aを目安とします。ただし、土質、有機質の肥効等考慮のうえ適宜貴地に合わせて増減して下さい。

即効性の高度化成は使用せず、やや緩効性の化成肥料の使用が望ましいです。

③播種

播種前は必ず灌水チューブ等で24時間以上灌水して下さい。その後、施肥、耕起、畝立を行います。

株間は7～8cm、条間は20cm程度(夏期は軟弱徒長を防止する為、株間8cm～10cm、条間は25cmとやや広めに、冬期は狭目とします)。播種後は十分に灌水して下さい。ここでの灌水が十分でないと、発芽が不揃いとなり一斉収穫が出来なくなります。畝の表面下10～15cm水が行き渡る様にして下さい。

播種前後の灌水を十分に行う事で本葉が1～2枚展開する頃まで灌水を控えて下さい。立枯病、軟弱徒長の予防となります。

播種量は2dlで6a程度が基準となりますが、株間条間により変動します。

④管理

本葉が1～2枚展開する頃に最初の灌水を行います。その後は収穫10日前まで7～10日の間隔で行いますが、冬期の栽培においては収穫まで出来るだけ灌水は控えめに管理します。回数を多くするより、1回にたっぷりと晴天時の午前中に行うことが望ましいです。収穫時に水分が多過ぎると棚持ちが悪くなり、葉折れ、腐敗の原因となるので、やや水不足気味で収穫期を迎えられるようにするのが灌水の最も重要なポイントとなります。

ハウス内が過湿状態にならない様、換気に留意し冬期といえども暖かい日の午前中くらいは外気を入れるよう心掛けて下さい。

次ページ



MARUTANE
Quality Seeds

Japanese Green シロナ

栽培マニュアル

④管理つづき

春の管理

早春のハウス栽培では抽苔が一番の問題となります。特に生育初期の低温は花芽分化を促進させますからべたがけ資材等で回避して下さい。個々の条件については、各種指導機関に確認する様にして下さい。

収穫までの日数は35～40日程度です。

夏の管理

遮光栽培にて出来るだけ涼しく管理して下さい。

年間を通じて一番収穫適期が短いので、計画的に播種して下さい。

高温時の収穫は鮮度が低下しやすいので、収穫位置のハウス屋根に遮光ネットをかけ、なるべく涼しい早朝に収穫し余冷庫等の活用により鮮度を維持して下さい。

病害虫も一番多発する時期です、病害虫防除の項を参考して下さい。

収穫までの日数は30日程度です。

冬の管理

発芽しやすい様暖かい日を選んで播種します。

午後の灌水は凍結の恐れがあるので厳禁です。暖かい日の午前中に行ってください。

生育期間の長い作型ですので、肥効が最後まで途切れない様、肥料を選択して下さい。

3月中旬以降に収穫を迎える作型は抽苔の危険があるので、前述の春の管理に準じて抽苔を回避して下さい。

収穫までの日数は60～70日程度です。

トンネル・ハウス栽培

春秋の適期栽培では露地栽培も可能ですが、防虫ネットのトンネル使用が望ましいです。

梅雨及び夏期はハウスによる雨除け栽培をお勧めします。

冬期のトンネル栽培も可能ですが、ハウス栽培の方が生育期間も短く、各種の管理作業も容易です。

⑤病害虫防除

防虫ネットによるトンネル等、できるだけ農薬を使わない栽培を行います。

多発期には生育初期の農薬散布を基本とし、総散布回数に減少に勤めます。使用できる農薬が少ないので予防に重点を置いて下さい。

ハウス内の前作の残渣や雑草は病害虫の原因となりますので、早めに除去して下さい。

主な病害虫

立枯病、軟腐病、根こぶ病、べと病、白斑病、白さび病等
コナガ、ヨトウムシ、キスジノミハムシ、アブラムシ、アオムシ等

⑥収穫

草丈27～28cm位になれば順次収穫します。収穫後は急速に品質が低下しますので速やかに下葉、子葉、枯葉、根部を除去し調整、袋詰めを行います。